

# 集落ぐるみで実施したイノシシ・シカ被害対策

## ～若桜町糸白見地区の事例～

### 1 取組経緯

若桜町糸白見地区（43戸うち農家31戸）では、イノシシによる畦畔の掘起し、水稻・野菜等の食害とシカによる水稻・野菜・庭木等の食害が通年発生するようになってきた。また、秋にはクマによるクリやカキ等の食害が増加してきた。とくに近年は、シカによる被害が増加してのり面のササ等の減少が目立ってきていた。対策としては、複数の農家で電気柵を圃場のブロックごとに設置したり、個人毎にトタン柵・ネット柵を設置していた。また、住宅周辺のクリやカキの木には、トタン巻きを実施してきた。さらに、捕獲檻によるイノシシ・シカの捕獲を実施している。これまでの個々の対策には限界があるので、集落ぐるみで効果的な対策を実施した。

### 2 取組内容

- (1) 集落周辺の被害状況調査を実施した（平成21年2月：地元、町、県）。
- (2) イノシシ・シカの被害防止対策について専門家を交えて意見交換会を実施した（2月）。
- (3) イノシシ・シカ・クマ・サルの生態及び被害対策研修会および柵の設置研修及び設置ルートの踏査を実施した（3月：地元20名が参加）。
- (4) 地元住民が共同して柵（シシ垣くん（猪・熊タイプ））を約3000m設置した（10月：地元20人で半日作業を5日間実施）
- (5) 周辺地域への拡大推進にむけて、糸白見地区において八頭地区の指導者研修会を実施した（10月）。



▲ ワイヤメッシュ・電気複合柵の地元共同設置（総延長3,000m）

H21 鳥獣害防止総合対策交付金事業（国55/100）を活用 事業費（材料費のみ）約1百万円

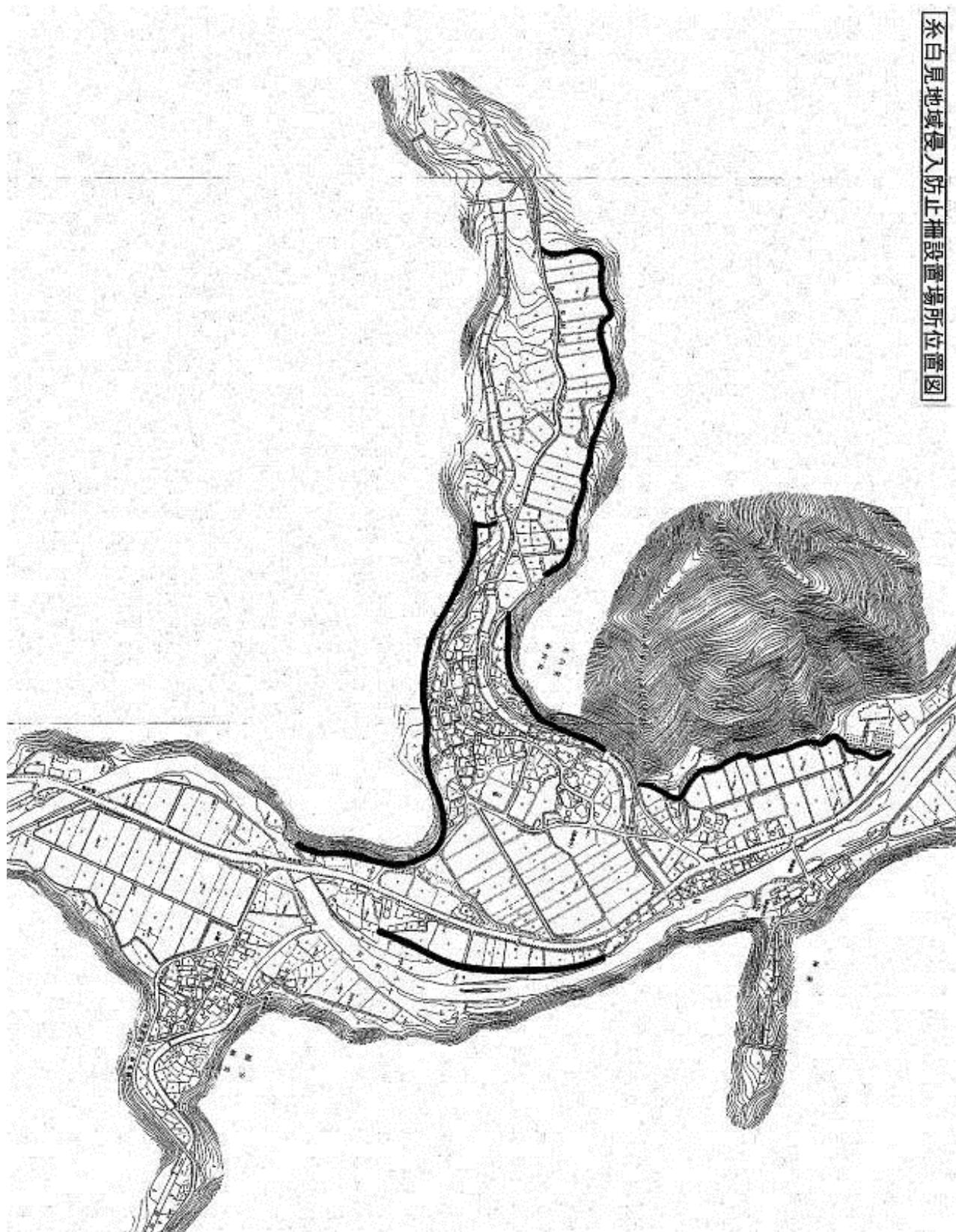
### 3 取組効果

- (1) イノシシ、シカのほ場への侵入がなくなった。
- (2) 集落内の他のほ場でも柵の設置が進んだ。
- (3) 県内外から視察があるなど、周辺地域で集落ぐるみの対策への認識が高まった。



▲ 電気柵の維持管理について研修

【侵入防止柵等の設置位置図】



糸白見地域侵入防止柵設置場所位置図